

公 表 用

平 成 2 0 年 度

積 算 基 準 (步 掛 ・ 単 価)

平 成 2 0 年 1 0 月 1 日 以 降 適 用

長 崎 県 農 林 部 農 村 整 備 課

積算基準(単価・歩掛)の公表について

1.はじめに

長崎県農林部農村整備課が発注する農業農村整備工事のうち、農村整備課の独自調査により決定したものを公表するものである。

2.内容

1)単価

単価については平成20年度積算基準(単価・歩掛)長崎県土木部 公表用による。

2)歩掛

長崎県農林部農村整備課の歩掛の大半は国が制定した歩掛をそのまま、準用しており、これらの歩掛は既に国において市販公表されている。

よって、本書には当課が独自に制定した歩掛及び「市販公表用図書」の一覧を掲載している。

3)産業廃棄物処分費に係わる積算の取扱い

処分費等を含む工事の積算は、当該処分費等を直接工事費、準備費に計上し、間接工事費等の積算は、下表のとおりとする。

区 分	処分費等が「共通仮設費対象金額+準備費に含まれる処分費」に占める割合が3%以下かつ処分費等が3千万円以下の場合	処分費等が「共通仮設費対象金額+準備費に含まれる処分費」に占める割合が3%を超える場合、または処分費等が3千万円を超える場合
共通仮設費 現場管理費 一般管理費等	全額を率の対象とする。	処分費等が「共通仮設費対象金額+準備費に含まれる処分費」に占める割合の3%とし、3%を超える金額は、率計算の対象としない。ただし、対象となる金額は3千万円を上限とする。

(注)1. 準備費に含まれる処分費は、伐開、除根等に伴うものである。

2. 産業廃棄物の処分費等とは次に掲げるものとする。

産業廃棄物等を最終処分場にて埋立て処分する場合、若しくは再生資源化施設において再生処理をする場合等の費用。(運搬を産業廃棄物処理許可業者(収集運搬業含む。)に行わせる場合は、その運搬費を含む。)

有料道路利用料

3.その他

1)本書の内容に関する質問は原則として受け付けない。

2)本書は、平成20年10月1日以降積算を行い発注する工事から適用し平成21年9月30日までの適用を予定している。

長崎県が使用している市販公表用図書一覧

歩 掛 名	発 行	連 絡 先
平成20年度 土地改良工事積算基準(土木工事) (施設機械) (調査・測量・設計) (機械経費)	農業農村整備総合情報センター	〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-3 川島ビル5F (03)5695-7170

平成 20 年 度 1 0 月

公表用歩掛・単価目次

番号	工 種	番号	工 種
1	ダンプトラック運搬(コン塊・アス塊)	32	架設桁架設:ポストテンション桁架設
2	バックホウ積込(コンクリート塊)	33	架設桁架設:架設機械据付・解体
3	ブルドーザ締固め(特殊)	34	架設桁架設:架設機械移動
4	石積工(空・練積)	35	架設桁架設:軌道設置・撤去
5	裏込工(ブロック積・ブロック張)	36	架設桁架設:アンカー工
6	裏込工(石積・石張)	37	架設桁架設:架設機械器具費
7	アンカー工(鋼材挿入工)	38	架設桁架設:架設桁運搬費
8	杭用鋼管杭及びH鋼ガス切断	39	横組工:鉄筋工
9	芝工(耳芝)	40	横組工:コンクリート工
10	長崎県大型ブロック積	41	横組工:PCケーブル横締工
11	長崎県大型ブロック用基礎ブロック	42	横組工:緊張工
12	U型溝据付工(2種、4種)	43	横組工:緊張ジャッキ損料
13	横断暗渠工(L=2000- 600まで)	44	ブルドーザ敷均(2次運土・客土)
14	捨石投入	45	法面ほ場整備整地工(ブルドーザ)
15	捨石均し(陸上部)	46	暗渠排水工(バックホウ掘削)
16	捨石均し(水中部)	47	人力石礫除去工
17	被覆石投入	48	保孔管挿入工(ガス管)
18	被覆石均し(陸上部)	49	ガス管孔あけ加工
19	被覆石均し(水中部)	50	保孔管設置
20	碇着鉄筋	51	地すべり実態調査
21	方塊ブロック製作	52	地下水調査(携帯用触針式水位計)
22	ブロック据付・仮置(海上一連方式)	53	パイプ歪計
23	流量計(ウォルトマン型)設置	54	孔内傾斜計
24	積上げボックスタイプ据付	55	ポーリングマシン足場工
25	ポリエチレン管布設	56	ため池堤体締固工(振動ローラ締固め)
26	路盤工(下層・車道部)	57	法止ブロック
27	ガードレール設置	58	カーブミラー設置
28	ポストテンション桁製作工	59	落口工人力布設
29	ポストテンション桁製作工:機械器具損料	60	分水トラフ
30	トラッククレーンPC桁架設(橋梁下)	61	(単価)ガードレール基本3色加算額
31	トラッククレーンPC桁架設(橋梁背面)	62	(単価)報告書作成用単価一覧表

1	名称	ダンプトラック運搬(コン塊・アス塊)	施工単位	m ³
---	----	--------------------	------	----------------

1. 適用範囲

ダンプトラックによるコンクリート塊、アスファルト塊の運搬に適用する。

2. 規格区分 表1

規格区分	軽油数量(L / 時間)
2t	4.4
4t	6.8

3. 路面条件の選択 表2

路面条件
良好
普通
不良

選定条件

良好: 舗装道その他これに準ずる良好な搬路における運行が主な場合。

普通: 路面がよく維持されている砂利道又はこれに準ずる搬路における運行が主な場合。

不良: 破碎岩の混入する搬路又は、河床路上等における運行が主でタイヤの損耗が著しいと認められる場合。

能力算定式

1. ダンプトラックの運転1時間当たりの運搬土量(Q) (m³ / 時間)

$$Q = \frac{60 \times q \times i \times E}{C_m} \quad (\text{小数点以下3位4捨5入2位止め})$$

(1) 1台当たり積載土量(q)

1台当たり積載土量(q)は、下表を標準とする。

積載土量(q) (地山土量: m³) 表3

規格	土質名		
	コンクリート塊(無筋)	コンクリート塊(有筋)	アスファルト塊
2t	0.8	0.8	0.8
4t	1.7	1.6	1.7

(2) サイクルタイム(cm) (小数点以下2位4捨5入1位止め)

$$C_m = L + \quad (\text{min})$$

Cm: サイクルタイム(分)

: 運搬状況による係数(表4)

DID通行区分の選択 表4

DID区分	
有り	6.0
無し	5.2

選定条件

・DID区分(人口集中地区)の適用条件は、下記による。

有り: DID地区が存在する経路を昼間運搬する場合。

無し: 上記以外の運搬の場合。

・DID区分は、総務庁統計局の国勢調査報告資料のDID(人口集中地区)境界図によるものとする。

1	名 称	ダンプトラック運搬(コン塊・アス塊)	施工単位	m ³
---	-----	--------------------	------	----------------

L: 運搬距離(km) = (往路距離 + 復路距離) / 2
(Lは小数点以下2位四捨五入1位止まりとし、0.1km未満は0.1kmとする。
: 積込等その他作業による係数(min)(表5)

積込機種及び積込機械規格の選定 表5

規格区分	積込機種	積込機械規格	
2t	バックホウ	山0.45(平0.35)	8
		山0.80(平0.60)	6
4t	バックホウ	山0.45(平0.35)	10
		山0.80(平0.60)	8

(3) 土量換算係数(f)

f = 1.00をとす。(f = 1.00以外の場合は、別途考慮する。)

(4) 作業効率(E)

E = 0.9とし、現場条件による補正はサイクルタイム(Cm)で行う。

2. 1日当たり作業量(QD)

$$QD = Q \times T \quad (m^3 / 日)$$

Q: 運転1時間当たり作業量

T: ダンプトラックの1日当たりの運転時間

施工単価構成内訳

1時間(Q 1) 当り算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) ダンプトラック		1	時間	
(2) 消耗部品費	タイヤ	1	時間	
(3) 軽油	パトロール給油	表1	L	
(4) 一般運転手		Y X 4	人	
(5) 合計				(1) ~ (4)
(6) 単価		1.0	m ³	(5) / Q
(7) 1日当たり作業量			m ³	QD

2	名 称	バックホウ積込(コンクリート塊)	施工単位	m³
----------	------------	-------------------------	-------------	----------------------

1. 適用範囲

バックホウによるコンクリート塊(破碎後)を運搬機械(ダンプトラック11t以外)へ積込作業を行う場合に適用する。

2. 作業区分、規格区分、運転手の選択

表1

作業区分	規格区分	1日当り施工量QD(m ³)	運転労務	労務人数(人)
コンクリート塊の積込	山積0.45m ³ (平0.35m ³)	130	運転手(特殊)	1人
	山積0.80m ³ (平0.60m ³)	260	運転手(特殊)	1人

3. 排出ガス対策区分及び機械損料の選択

表2

作業区分	規格区分	排出ガス区分	燃料消費量(L/日)	機械損料数量
コンクリート塊の積込	山積0.45m ³ (平0.35m ³)	排対型	58	1.38
		従来型	58	1.38
	山積0.80m ³ (平0.60m ³)	排対型	108	1.46
		従来型	108	1.46

4. 補助労務

・コンクリート塊の集積、積込の補助として普通作業員(0.4人/10.0m³)を含む。

施工単価構成内訳

QDm³当り算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) バックホウ	表1	表2	日	
(2) 軽油	ハトール給油	表2	L	
(3) 運転手(特殊)		1	人	
(4) 普通作業員		0.4/10*表1	人	
(5) 合計				(1)~(4)
(6) 単価		1.0	m ³	(5) / QD
(7) 1時間当り作業量				QD

3	名 称	ブルドーザ締固め(特殊)	施工単位	m²
----------	------------	---------------------	-------------	----------------------

1. 適用範囲

ブルドーザによる一般工事(道路工事以外)の締固め作業に適用する。

2. 適用機種

表1

機種の選択	運転時間(T)	1回の締固め幅(W)	軽油使用量(公升)	締固め回数(N)	運転労務	労務数量(人)
普通ブル 15t	5.2	0.8	18	5	運転手(特殊)	0.19
普通ブル 21t	6.9	0.9	27	4	運転手(特殊)	0.14
湿地ブル 13t	5.2	1.3	14	4	運転手(特殊)	0.19
湿地ブル 16t	5.2	1.5	18	4	運転手(特殊)	0.19

・締固め回数は標準を明示しており、現場条件により適宜決定すること。

・機種は排出ガス対策型を標準とする。

3. 作業効率

表2

作業条件	作業効率(E)
良好	0.80
普通	0.60
不良	0.40

作業条件は下記による。

良好 盛土材料の供給能力と作業能力とのバランスがよく、土質、粒度配合の適正もよく、作業現場の起伏が無く、妨害がないような場合。

不良 盛土材料の供給能力と作業能力とのバランスが悪く、待ち時間が多いか、土質、含水比の状態が悪く、作業現場の地形が複雑で作業ロスが多いような場合。

普通 上記の諸条件がほぼ中位と考えられる場合。

4. 運転1時間当たりの作業量(A) (m² / 時間)

$$A = \frac{V \times W \times E}{N} \quad (\text{小数3位4捨5入2位止め})$$

A: 運転1時間当たり作業量 (m² / 時間)

V: 締固め速度 (3500m/時間)

W: 1回の締固め幅 (表1)

E: 作業効率 (表2)

N: 締固め回数 (表1)

施工単価構成内訳

1時間(Am²)当り算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) ブルドーザ	表1	1	時間	
(2) 軽油	パトロール給油	表1	L	
(3) 運転手(特殊)		表1	人	
(4) 合計				(1) ~ (3)
(5) 単価		1.0	m ³	(4) / A
(6) 1時間当り作業量				A

4	名 称	石積工(空・練積)	施工単位	m²
----------	------------	------------------	-------------	----------------------

1. 適用範囲

玉石又は雑割石を用い、法勾配が1割より急な石積(空・練積)に適用する。

2. 石積材料区分の選択

表1

積区分	石積材料区分	標準個数(個)	胴込材(m ³)	胴込コンクリート(m ³)
空積	玉石(25cm)	350	0.83	-
	玉石(30cm)	230	1.00	-
	玉石(35cm)	160	1.17	-
	雑割石(30cm)	160	1.50	-
	雑割石(35cm)	120	1.75	-
	雑割石(45cm)	100	2.25	-
練積	玉石(25cm)	350	-	0.83
	玉石(30cm)	230	-	1.00
	玉石(35cm)	160	-	1.17
	雑割石(30cm)	160	-	1.50
	雑割石(35cm)	120	-	1.75
	雑割石(45cm)	100	-	2.25

3. 労務区分の選択

表2

積区分	石積材料区分	世話役	石工	普通作業員	積込手間 普通作業員	特殊作業員	胴込手間 普通作業員
空積	玉石(25cm)	0.2	0.63	1.38	-	-	-
	玉石(30cm)	0.2	0.63	1.41	-	-	-
	玉石(35cm)	0.2	0.63	1.44	-	-	-
	雑割石(30cm)	0.2	1.32	2.48	-	-	-
	雑割石(35cm)	0.2	1.32	2.52	-	-	-
	雑割石(45cm)	0.2	1.32	2.62	-	-	-
練積	玉石(25cm)	0.2	0.63	-	1.22	0.15	0.30
	玉石(30cm)	0.2	0.63	-	1.22	0.18	0.36
	玉石(35cm)	0.2	0.63	-	1.22	0.21	0.42
	雑割石(30cm)	0.2	1.32	-	2.19	0.27	0.54
	雑割石(35cm)	0.2	1.32	-	2.19	0.32	0.63
	雑割石(45cm)	0.2	1.32	-	2.19	0.41	0.81

・積石の積み手間、胴込材の仕立手間、抜型枠(練積のみ)の設置取り外し及び積み立てに伴う材料の移動手間を含む。

4. 裏込コンクリートによる選択

表3

コンクリート厚	特殊作業員(打設手間)	普通作業員(打設手間)	コンクリート数量
0	-	-	-
10	0.18	0.36	1.0
15	0.27	0.54	1.5
20	0.36	0.72	2.0

4	名称	石積工(空・練積)	施工単位	m ²
---	----	-----------	------	----------------

5. 水抜管数量 表4

石積材料区分 (控長)	裏込コンクリート厚			
	0	10	15	20
玉石(25cm)	0.25	0.33	0.38	0.42
玉石(30cm)	0.29	0.38	0.42	0.46
玉石(35cm)	0.33	0.42	0.46	0.50
雑割石(30cm)	0.29	0.38	0.42	0.46
雑割石(35cm)	0.33	0.42	0.46	0.50
雑割石(45cm)	0.42	0.50	0.54	0.58

施工単価構成内訳

10m²当り算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) 積石材		表1	個	
(2) 胴込栗石	栗石(5~15cm)	表1*(1+0.14)	m ³	空積
(2) 胴込生コンクリート	18-40-8	表1*(1+0.19)	m ³	練積
(3) 裏込コンクリート	18-40-8	表3*(1+0.19)	m ³	練積
(4) 硬質塩化ビニール管	VU 40	表4	本	練積(水抜きパイプ)
(5) 世話役		表2	人	
(6) 石工		表2	人	
(7) 普通作業員		表2	人	空積
(8) 普通作業員	積手間	表2	人	練積
(9) 特殊作業員	胴込手間	表2	人	練積
(10) 普通作業員	胴込手間	表2	人	練積
(11) 雑品	20%	0.2		練積(9)+(10)
(12) 特殊作業員	裏込コ手間	表3	人	練積
(13) 普通作業員	裏込コ手間	表3	人	練積
(14) 雑品(裏込コンクリート)	1%	0.01		練積(12)+(13)
(15) 合計				(1)~(14)
(16) 単価		1.0	m ²	(15)/10
(17) 1日当り作業量			m ²	QD

・雑品(練積のみ)とは、パイプレーター、手車、抜き型枠の経費及びその他材料の費用である。

1日当り作業量

空積の時 $QD = 10 \text{ m}^2 / \text{石工歩掛(人)} \times H/8 \quad (\text{m}^2 / \text{日})$

練積の時 $QD = 10 \text{ m}^2 / (\text{石工歩掛(人)} + \text{特殊作業員歩掛(人)}) \times H/8 \quad (\text{m}^2 / \text{日})$

$H = P + GR1$

P:基本給対象時間内の作業時間

GR1:超勤割増対象作業時間

5	名 称	裏込工(ブロック積、ブロック張)	施工単位	m ³
---	-----	------------------	------	----------------

1. 適用範囲

ブロック積み・ブロック張りに裏込工を施工する場合に適用する。

2. 裏込材料区分

表1

材料区分	裏込材区分	裏込材数量	充填材数量
新材	栗石	11.4	2.3
	クラッシャーラン	11.1	
再生材	栗石	11.4	2.3
	クラッシャーラン	11.1	

・再生材の栗石とは、間隙充填材(再生クラッシャーラン)のみが再生材である。

3. 施工区分の選択

表2

施工区分	世話役	普通作業員	雑品
ブロック積	0.5	1.4	7.0
ブロック張	0.4	0.8	8.0

4. 潮待区分の選択

潮待区分
1.00
1.10
1.20
1.30

施工単価構成内訳

10 m³当り算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) 土木一般世話役		表2×表3	人	
(2) 普通作業員		表2×表3	人	
(3) 雑品		表2/100		(1)~(2)
(4) 裏込材		表1	m ³	
(5) 間隙充填材	裏込材が栗石の時	表1	m ³	
(6) 合計				(1)~(5)
(7) 単価		1.0	m ³	(6) / 10
(8) 1日当たり作業量		QD	m ³	QD

・雑品とは、投入、突固め機械の損料及び油脂類等の費用であり、労務費の合計額に乗じた金額とする。

1日当たり作業量

$$QD = 10 \text{ m}^3 / \text{普通作業員歩掛(人)} \times H/8 \quad (\text{m}^3 / \text{日} \cdot \text{人})$$

$$H = P + GR1$$

P:基本給対象作業時間内の作業時間

GR1:超勤割増対象作業時間

6	名 称	裏込工(石積・石張)	施工単位	m ³
---	-----	------------	------	----------------

1. 適用範囲

石積み・石張りに裏込工を施工する場合に適用する。

2. 裏込材料区分 表1

材料区分	裏込材区分	裏込材数量	充填材数量
新材	栗石	11.4	2.3
	クラッシャーラン	12.0	-
	生コンクリート	11.9	-
再生材	栗石	11.4	2.3
	クラッシャーラン	12.0	-

・再生材の栗石とは、間隙充填材(再生クラッシャーラン)のみが再生材である。

3. 施工区分の選択(普通作業員)(10m³当たり) 表2

施工区分	裏込材区分		
	栗石	クラッシャーラン	生コンクリート
石積み	1.9	1.9	3.6
石張り	1.0	1.0	-

4. 雑品 表3

施工区分	数量
石積み	3.0
石張り	4.0

5. 潮待区分の選択 表4

潮待区分
1.00
1.10
1.20
1.30

施工単価構成内訳

10m³当り算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) 裏込材		表1	m ³	
(2) 間隙充填材		表1	m ³	裏込材が栗石の時
(3) 特殊作業員		1.8 * 表4	人	石積みで裏込材が生コンの時
(4) 普通作業員		表2 * 表4	人	
(5) 雑品	裏込材が生コン以外の時	表3 / 100		(3) ~ (4)
(6) 雑品	裏込材が生コンの時	0.01		(3) ~ (4)
(7) 合計				(1) ~ (6)
(8) 単価		1.0	m ³	(7) / 10
(9) 1日当たり作業量		QD	m ³	QD

・雑品 とは、投入、突固め機械の損料及び油脂類等の費用であり、労務費の合計額に乘じた金額とする。

・雑品 とは、生コンクリートの雑材料費のみである。

・裏込材の生コンクリートは、石積の場合を対象とする。

1日当たり作業量

$$QD = 10 \text{ m}^3 / \text{普通作業員歩掛(人)} \times H/8 \quad (\text{m}^3 / \text{日} \cdot \text{人})$$

$$H = P + GR1$$

P:基本給対象作業時間内の作業時間

GR1:超勤割増対象作業時間

7	名 称	アンカー工(鋼材挿入工)	施工単位	本
<p>1. 適用範囲 土地改良工事積算基準(土木工事)アンカー工が適用できない場合で、PC鋼より線をすべて工組立・加工した場合に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(共通編)による。</p>				

8	名 称	杭用鋼管杭及びH鋼ガス切断	施工単位	箇所
----------	------------	----------------------	-------------	-----------

1. 適用範囲

現場で行う杭用鋼管杭及びH鋼ガス切断に適用する。

2. 鋼管区分の選択

表1

鋼管区分	酸素ガス (m ³)	アセチレンガス (kg)	労務数量 (人)	ガス切断数 量(m)
216.3mm 管厚5.8mm	14.58	5.13	3.42	6.79
216.3mm 管厚8.2mm	20.27	8.69	4.54	6.79
267.4mm 管厚6.6mm	14.58	5.13	3.42	8.40
267.4mm 管厚9.3mm	20.27	8.69	4.54	8.40
318.5mm 管厚6.9mm	14.58	5.13	3.42	10.00
318.5mm 管厚10.3mm	20.27	8.69	4.54	10.00
355.6mm 管厚7.9mm	20.27	8.69	4.54	11.17
355.6mm 管厚11.1mm	20.27	8.69	4.54	11.17

酸素ガス、アセチレンガス、労務数量(溶接工、普通作業員)は100m当たり数量である。
ガス切断数量は、10箇所当たり数量である。

3. H鋼区分の選択

ウェブ部

表2

H鋼区分	酸素ガス (m ³)	アセチレンガス (kg)	労務数量 (人)	ガス切断数 量(m)
100×100×6/8	14.58	5.13	3.42	0.84
125×125×6.5/9	14.58	5.13	3.42	1.07
150×150×7/10	14.58	5.13	3.42	1.30
175×175×7.5/11	20.27	8.69	4.54	1.53
200×200×8/12	20.27	8.69	4.54	1.76

酸素ガス、アセチレンガス、労務数量(溶接工、普通作業員)は100m当たり数量である。
ガス切断数量は、10箇所当たり数量である。

フランジ部

表3

H鋼区分	酸素ガス (m ³)	アセチレンガス (kg)	労務数量 (人)	ガス切断数 量(m)
100×100×6/8	20.27	8.69	4.54	2.00
125×125×6.5/9	20.27	8.69	4.54	2.50
150×150×7/10	20.27	8.69	4.54	3.00
175×175×7.5/11	20.27	8.69	4.54	3.50
200×200×8/12	20.27	8.69	4.54	4.00

酸素ガス、アセチレンガス、労務数量(溶接工、普通作業員)は100m当たり数量である。
ガス切断数量は、10箇所当たり数量である。

8	名 称	杭用鋼管杭及びH鋼ガス切断	施工単位	箇所
---	-----	---------------	------	----

施工単価構成内訳

10.0箇所当たり算出

名	称	規格	数	量	単 位	備 考
(1)	酸素ガス		表1/100.0*	表1	m3	鋼管の場合
(1)	酸素ガス		表2/100.0*	表2	m3	H鋼の場合(ウIﾌﾞ部)
(1)	酸素ガス		表3/100.0*	表3	m3	H鋼の場合(ﾌﾗﾝｼﾞ部)
(2)	アセチレンガス		表1/100.0*	表1	kg	鋼管の場合
(2)	アセチレンガス		表2/100.0*	表2	kg	H鋼の場合(ウIﾌﾞ部)
(2)	アセチレンガス		表3/100.0*	表3	kg	H鋼の場合(ﾌﾗﾝｼﾞ部)
(3)	雑品		0.05			(1)～(2)
(4)	溶接工		表1/100.0*	表1	人	鋼管の場合
(4)	溶接工		表2/100.0*	表2	人	H鋼の場合(ウIﾌﾞ部)
(4)	溶接工		表3/100.0*	表3	人	H鋼の場合(ﾌﾗﾝｼﾞ部)
(5)	普通作業員		表1/100.0*	表1	人	鋼管の場合
(5)	普通作業員		表2/100.0*	表2	人	H鋼の場合(ウIﾌﾞ部)
(5)	普通作業員		表3/100.0*	表3	人	H鋼の場合(ﾌﾗﾝｼﾞ部)
(6)	合計					(1)～(5)
(7)	単価		1.0		箇所	(6)/10.0
(8)	1日当たり作業量		QD		箇所	QD

9	名 称	芝工(耳芝)	施工単位	m
---	-----	--------	------	---

1. 適用範囲

人工芝を使用して盛土法面等に耳芝のみを植付ける場合に適用する。

施工単価構成内訳

10 m当たり算出

	名称	規格	数量	単位	備考
(1)	人工芝(耳芝)	7cm	10.2	m	
(2)	普通作業員		0.03	人	
(4)	合計				(1) ~ (2)
(5)	単価		1.0	m	(3) / 10
(6)	1日当り作業量				QD

10	名 称	長崎県大型ブロック積	施工単位	m ²
<p>1. 適用範囲</p> <p>市場単価方式における、長崎県大型ブロック積で法勾配は1:0.3、1:0.4、1:0.5,直高5m以下に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 積算資料九州版による。</p>				

11	名 称	長崎県大型ブロック用基礎ブロック	施工単位	m ²
<p>1. 適用範囲</p> <p>市場単価方式における、長崎県大型ブロック積用基礎ブロックに適用する。</p> <p>施工単価構成内訳</p> <p>積算資料九州版による。</p>				

12	名 称	[U形溝据付工(2種、4種)]	施工単位	m
<p>1. 適用範囲</p> <p>市場単価方式による、製品の長さが1.0m又は2.0mの鉄筋コンクリートU形水路(2種、4種)の据付(基礎碎石+敷モルタルまたは敷砂+据付)または撤去に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳</p> <p>建設物価土木コスト情報による。</p>				

13	名 称	横断暗渠工(L=2000 - 600まで)	施工単位	m
<p>1.適用範囲 市場単価方式による、製品の長さが2.0mの横断暗渠工(管渠型側溝)の据付に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 積算資料九州版による。</p>				

14	名 称	捨石投入	施工単位	m3
<p>1.適用範囲 捨石を直接水中投入又は瀨取り投入する場合に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 港湾土木請負工事積算基準による。</p>				

15	名 称	捨石均し(陸上部)	施工単位	㎡
<p>1.適用範囲 陸上部の捨石均し(陸上施工・海上施工)に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 港湾土木請負工事積算基準による。</p>				

16	名 称	捨石均し(水中部)	施工単位	m ²
<p>1. 適用範囲 水中部の捨石均しで、潜水土船のウインチによる均し作業に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 港湾土木請負工事積算基準による。</p>				

17	名 称	被覆石投入	施工単位	m3
<p>1.適用範囲 被覆石を直接水中投入又は瀬取り投入する場合に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 港湾土木請負工事積算基準による。</p>				

18	名 称	被覆石均し(陸上部)	施工単位	m ²
<p>1. 適用範囲 陸上部の被覆石均し(陸上施工・海上施工)に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 港湾土木請負工事積算基準による。</p>				

19	名 称	被覆石均し(水中部)	施工単位	m ²
<p>1. 適用範囲 水中部の被覆石均しで、潜水土船のウインチによる均し作業に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 港湾土木請負工事積算基準による。</p>				

20	名 称	碇着鉄筋	施工単位	本
----	-----	------	------	---

1. 適用範囲

海岸工事における既設構造物の嵩上げ、腹付け等における碇着部の鉄筋植付に適用する。

2. 碇着鉄筋径の選択

表1

碇着鉄筋径	異径棒鋼数量(t)
D19	0.139
D16	0.096
D13	0.061

3. 潮待区分の選択

表2

潮待区分
1.00
1.10
1.20
1.30

潮待補正がない場合 1.00

潮待補正がある場合

施工基面が

H.W.L ~ M.S.Lの時 1.10

M.S.L ~ M.L.W.Lの時 1.20

M.L.W.L以下の時 1.30

施工単価構成内訳

100,000本当たり算出

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1) 石工		0.3*表2	人	
(2) 特殊作業員		3.1*表2	人	
(3) 普通作業員		0.8*表2	人	
(4) ハンドハンマ	15kg	2.1	日	
(5) コンプレッサ	3.5 ~ 3.7m ³ /min	2.1	日	排対型・従来型
(6) コンプレッサ軽油		62.0	L	
(7) 諸雑費		4.0/100		(1) ~ (6)
(8) 異径棒鋼		表1	ton	
(9) 鉄筋(加工・組立)		K*表1	ton	
(10) セメント(高炉B)		0.03*0.72	ton	モルタル(1:2)
(11) 砂(細骨材用)細目		0.03*0.95	m ³	モルタル(1:2)
(12) 普通作業員		0.03*1.00	人	モルタル(1:2)
(13) 合計				(1) ~ (12)
(14) 単価		1.0	本	(13)/100

K:鉄筋(加工・組立)数量補正值Kについては[鉄筋工]による。

コンプレッサは賃料とする。

21	名 称	方塊ブロック製作	施工単位	個
----	-----	----------	------	---

1. 適用範囲
方塊ブロックの製作に適用する。

2. 吊り鉄筋径の選択

吊り鉄筋径の選択 表1

吊り鉄筋径
9 mm
13 mm
16 mm
19 mm
22 mm
25 mm
29 mm
32 mm

施工単価構成内訳

1個当たり算出

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1) コンクリート		1個当たり数量*1.01	m3	
(2) コンクリート打設手間		1個当たり数量	m3	市場単価方式による
(3) 側面型枠		1個当たり数量	m ²	市場単価方式による
(4) 底型枠		1個当たり数量	m ²	市場単価方式による
(5) 普通丸鋼(吊り鉄筋)	表1	1個当たり数量*1.03	ton	
(6) 吊り鉄筋加工組立		1個当たり数量	ton	市場単価方式による
(7) 合計				(1)~(6)
(8) 単価		1.0	個	(7)/1.00

22	名 称	ブロック据付・仮置(海上一連方式)	施工単位	個
<p>1. 適用範囲 ブロックを海上一連方式により据付又は仮置きする場合に適用する。但し、本体ブロックのセルラー・L型の20t以上及び蓋ブロックには適用できない。</p> <p>施工単価構成内訳 港湾土木請負工事積算基準による。</p>				

23	名 称	流量計(ウォルトマン型)設置	施工単位	個
----	-----	----------------	------	---

1. 適用範囲
 流量計(ウォルトマン型)の人力据付に適用する。

2 流量計設置(10個当たり) 表1

口径区分	世話役	特殊作業員	普通作業員
3/8(12A)	0.1	0.3	0.2
1/2(15A)	0.2	0.4	0.3
3/4(20A)	0.2	0.4	0.3
1(25A)	0.2	0.5	0.3
1 1/4(32A)	0.3	0.6	0.4
1 1/2(40A)	0.3	0.7	0.5
2(50A)	0.4	0.8	0.5

施工単価構成内訳 10個当たり算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) 流量計		10	基	
(2) 世話役		表1	人	
(3) 特殊作業員		表1	人	
(4) 普通作業員		表1	人	
(5) 合計				(1)~(4)
(6) 単価		1.0	個	(5) / 10

24	名 称	積上げボックスタイプ据付	施工単位	箇所
----	-----	--------------	------	----

1. 適用範囲

積上げボックスタイプ(空気弁用、流量計用、制水弁用)の据付に適用する。

施工単価構成内訳

1箇所当たり算出

	名称	規格	数量	単位	備考
(1)	世話役		0.13 × 重量	人	
(2)	特殊作業員		0.13 × 重量	人	
(3)	普通作業員		0.25 × 重量	人	
(4)	合計				(1) ~ (3)
(5)	単価		1.0	箇所	

重量とは1組合計重量(t)

25	名 称	ポリエチレン管布設	施工単位	m
<p>1. 適用範囲 75 ~ 600mmのポリエチレン管布設に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事積算基準書(共通編)による。</p>				

26	名 称	路盤工(下層・車道部)	施工単位	m ²
----	-----	-------------	------	----------------

1. 適用範囲

車道部のアスファルト舗装等で、仕上げ厚40cm以下(一層の仕上がり厚さが20cm以下)の一般道路の下層路盤又は、凍上抑制層に適用する。

仕上げ層数の選択 表1

仕上げ層数
1.00
2.00

施工単価構成内訳

1日(1110m²)当たり算出

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1) 路盤材		1110*路盤厚/100*1.27	m ³	
(2) 普通作業員		0.24*1110/100*表1	人	
(3) モータグレーダ	3.1m級	1.45*表1	供用日	敷均し作業
(4) 軽油		54*表1	L	敷均し作業
(5) 特殊運転手		1.0*表1	人	敷均し作業
(6) ロードローラ	マダ Δ10~12ton	1.47*表1	供用日	締固め作業
(7) 軽油		30*表1	L	締固め作業
(8) 特殊運転手		1.0*表1	人	締固め作業
(9) タイヤローラ	8~20ton	1.49*表1	供用日	締固め作業
(10) 軽油		36*表1	L	締固め作業
(11) 特殊運転手		1.0*表1	人	締固め作業
(12) 雑品	9%	0.09		(2)~(11)
(13) 合計				(1)~(12)
(14) 単価		1.0	m ²	(13)/1110.0
(15) 1日当たり作業量			m ²	QD

27	名 称	ガードレール設置	施工単位	m
----	-----	----------	------	---

1. 適用範囲
市場単価方式による、ガードレールの設置に適用する。

施工単価構成内訳

1m当たり算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) ガードレール設置工		1.0	m	市場単価方式
(2) 曲げ支柱(加算額)		1.0	m	曲げ支柱の場合 市場単価方式
(3) 基本3色(加算額)		1.0	m	基本3色の場合
(4) 合計				(1) ~ (3)
(5) 単価		1.0	m	(4)

28	名 称	ポストテンション桁製作工	施工単位	m3
<p>1. 適用範囲 ポストテンション単純T桁(支間長45m以下のPC定着工法)の現場製作工に適用する。セメントは早強セメントを標準とする。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

29	名 称	ポストテンション桁製作工:機械機具損料	施工単位	式
<p>1. 適用範囲 ポストテンション単純T桁(支間長45m以下のPC定着工法)の現場製作工法の現場製作工を使用する機械機具損料に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

30	名 称	トラッククレーンPC桁架設(橋梁下)	施工単位	日
<p>1. 適用範囲 トラッククレーンによるプレテンション桁及び桁質量160t未満のポストテンション桁の橋梁下からの架設工事に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 プレテン桁は土地改良工事積算基準(土木工事)による。 ポストテン桁は土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

31	名 称	トラッククレーンPC桁架設(橋梁背面)	施工単位	日
<p>1.適用範囲 トラッククレーンによるプレテンション桁の橋梁背面からの架設工事に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土地改良工事積算基準(道路編)による。</p>				

32	名 称	架設桁架設:ポストテンション桁架設	施工単位	ton
<p>1. 適用範囲 架設桁(下路式1組桁、上路式1組桁)による、支間長20～45mのポストテンション桁の架設工事に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

33	名 称	架設桁架設:架設機械据付・解体	施工単位	式
<p>1.適用範囲 ポストテンション桁(支間長20～45m)の架設機械の据付・解体に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

34	名 称	架設桁架設:架設機械移動	施工単位	回
<p>1.適用範囲 ポストテンション桁(支間長20～45m)の架設機械を次の支間に移動する作業に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

35	名 称	架設桁架設:軌道設置・撤去	施工単位	m
<p>1. 適用範囲 ポストテンション桁(支間長20～45m)の主桁引出し用軌道の設置・撤去に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

36	名 称	架設桁架設:アンカー工	施工単位	箇所
<p>1.適用範囲 ポストテンション桁による架設工事のアンカーを土中に設置する場合に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

37	名 称	架設桁架設:架設機械器具費	施工単位	式
<p>1. 適用範囲</p> <p>ポストテンション桁の架設桁による架設の場合の架設機械器具費(架設桁(1組桁)、桁吊装置、横取り装置、引出し装置、軌道設備(30kg/m))に適用する。なお、各機械器具損料はH20橋梁架設工事の積算(社)日本建設機械化協会(参考資料)によっているので、これによりがたい場合は別途積算する。</p> <p>施工単価構成内訳</p> <p>土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

38	名 称	架設桁架設:架設桁運搬費	施工単位	往復
<p>1.適用範囲 PC桁(新活荷重)用の架設桁(1組桁)の運搬費の往復(搬入・搬出)に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

39	名 称	横組工:鉄筋工	施工単位	Kg
<p>1.適用範囲 ポステンションPC橋桁及びプレテンションPC橋桁(A又はB活荷重桁)の横組工の間詰床版及び横桁の鉄筋加工・組立に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土地改良工事積算基準(土木工事)、土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

40	名 称	横組工:コンクリート工	施工単位	m3
<p>1. 適用範囲 ポストテンションPC橋桁及びプレテンションPC橋桁(A又はB活荷重桁)の横組の型枠及びコンクリート作業に適用しPC合成橋桁の床版は含まない。</p> <p>施工単価構成内訳 土地改良工事積算基準(土木工事)、土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

41	名 称	横組工:PCケーブル横締工	施工単位	本
<p>1. 適用範囲 プレストレストコンクリート桁[A又はB活荷重桁](プレテンション桁及びポストテンション桁)の横組工のうち、横締1本当りに要するPCケーブルの切断、シースの組立、ケーブルの挿入、整正、グラウトの注入に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土地改良工事積算基準(土木工事)、土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

42	名 称	横組工:緊張工	施工単位	本
<p>1. 適用範囲 PCポストテンション桁及びプレテンション桁(A又はB活荷重桁)の横組緊張工(定着装置組立、緊張、モルタルあと埋め作業)に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土地改良工事積算基準(土木工事)、土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

43	名 称	横組工:緊張ジャッキ損料	施工単位	式
<p>1.適用範囲 PCポストテンション桁及び、プレテンション桁の横締に使用するジャッキ損料に適用する。</p> <p>施工単価構成内訳 土地改良工事積算基準(土木工事)、土木工事標準積算基準書(道路編)による。</p>				

44	名 称	ブルドーザ敷均(二次運土・客土)	施工単位	m ³
----	-----	------------------	------	----------------

1. 適用範囲

ブルドーザによるほ場整備工事のうち、二次運土及び客土の敷均し作業に適用する。

2. 適用機種、規格の選択

表1

機種の選択	運転労務	労務数量(人/日)	燃料消費量(L/日)	機械損料数量
普通ブル 15t	運転手(特殊)	1	113	1.55
普通ブル 21t	運転手(特殊)	1	165	1.55
湿地ブル 16t	運転手(特殊)	1	122	1.64

3. 現場条件の選択

機種の選択	作業条件(m ³ /日)	
	標準	障害あり
普通ブル 15t	690	350
普通ブル 21t	980	570
湿地ブル 16t	560	350

作業条件は下記による。

標 準: 作業現場が広く、かつ作業妨害が少ない場合。

障害有り: 作業現場が狭く、かつ作業妨害が多い場合。

施工単価構成内訳

1日(m³)当り算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) ブルドーザ	表1	表1	供用日	排対型
(1) ブルドーザ	表1	表1	供用日	従来型
(2) 軽油	パトロール給油	表1	L	
(3) 運転手(特殊)		表1	人	
(4) 合計				(1)~(3)
(5) 単価		1.0	m ³	(4) / QD
(6) 1日当り作業量				QD

45	名 称	畑面ほ場整備整地工(ブルドーザ)	施工単位	ha
-----------	------------	-------------------------	-------------	----

1. 適用範囲

ブルドーザによる基盤造成完了後に表土戻し作業に先だて、切盛作業によって生じた不陸状態を均平に仕上げる作業に適用する。

2. 適用機種

表1

造成土量	機種	運転1時間当たり標準作業量(So)
1,000m ³ 未満	湿地ブルドーザ13t級	0.175
1,000～15,000m ³ 未満	普通ブルドーザ15t級	0.169
15,000～30,000m ³ 未満	湿地ブルドーザ16t級	0.177

3. 作業効率(E)

表2

作業条件	基盤整地
良好	0.90
普通	0.70
不良	0.50

作業条件は良好を標準とする。

4. 整地作業の運転1時間当たり作業量(S)

$$S = S_o \times E \text{ (ha/hr)}$$

S: 運転1時間当たり作業量(ha/hr) (小数点以下3位4捨5入2位止め)

S_o: 運転1時間当たり標準作業量(ha/hr) (表1)

E: 作業効率(表2) (表2)

5. 労務歩掛(人/ha)

表3

作業内容	世話役	普通作業員
基盤整地	0.1	3.5

施工単価構成内訳

ha当り算出

名称	規格	数量	単位	備考
(1) ブルドーザ運転	表1	1 / S	時間	
(2) 世話役		表3	人	
(3) 普通作業員		表3	人	
(4) 合計				(1)～(3)
(5) 単価		1.0	ha	(4)

46	名 称	暗渠排水工(バックホウ掘削)	施工単位	m
----	-----	----------------	------	---

1. 適用範囲
 ほ場整備工事おける、水田及び畑地の暗渠排水工の施工(バックホウによる掘削)に適用する。

1日当たりの施工量 (m) 表1

平均掘削深	1日当たり施工量(m/日)
0.3	567
0.4	535
0.5	503
0.6	471
0.7	439
0.8	407
0.9	375
1.0	343
1.1	311
1.2	279
1.3	247

施工単価構成内訳 1日(QDm)当たり算出

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1) バックホウ	山0.28m3(平0.20m3)	1.5	供用日	排対型・従来型
(2) 軽油		41	L	
(3) 特殊運転手		1.0	人	
(4) 合計				(1) ~ (3)
(5) 単価		1.0	m	(4)/QD
(6) 1日当たり作業量			m	QD

1. 1日当たり作業量(QD)は次の算定式によって求める。

$$QD = \text{表2 (1日当たり施工量)} (m / \text{日})$$

47	名 称	人力石礫除去工	施工単位	ha
----	-----	---------	------	----

1. 適用範囲

ほ場面又は、造成面に露出している5cmから35cm程度の石礫を人力で採取し、不整地運搬車に積み込み、集積場まで運搬し、卸す一連の作業に適用する。

能力算定式

1日当たり作業量(QD)

$$QD = \frac{1}{\text{普通作業員(表1)}} \div 10$$

10a当たり除去量の選択

表1

10a当たり除去量 (m ³ / 10a未満)	10a当たり数量	
	普通作業員(人)	運転日数(T1)
0.5未満	0.56	0.12
0.5～1	0.78	0.13
1～2	1.21	0.15
2～3	1.65	0.18
3～4	2.08	0.20
4～8	3.82	0.30
8～12	5.56	0.39
12～16	7.30	0.49
16～20	9.04	0.59
20～24	10.80	0.68
24～28	12.50	0.78

施工単価構成内訳

10a当たり算出

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1) 不整地運搬車(損料)	クローラ型油圧ダンプ式2.0t	表1	日	
(2) 軽油		9.0*表1	L	
(3) 特殊運転手	不整地運搬車運転	YXD4*表1	人	
(4) 普通作業員		表1		
(5) 合計				(1)～(4)
(6) 単価		1.0	ha	(5)*10
(7) 1日当たり作業量			ha	QD

48	名 称	保孔管挿入工(ガス管)	施工単位	m
----	-----	-------------	------	---

1. 適用範囲

地すべり工事の地表水抜ボーリング並びに集水井内水抜ボーリングでの保孔管(ガス管)の設置に適用する。

2. 設置区分の選択

表1

設置区分	世話役	特殊作業員	普通作業員	ボーリングマシン運転日数
地表設置	0.22	0.66	0.44	0.41
集水井内設置	0.31	1.14	0.57	0.48

3. 配管工(切断及びネジ加工)

表2

ガス管種	設置区分			
	地表設置		集水位内設置	
	配管工(切断)	配管工(ネジ加工)	配管工(切断)	配管工(ネジ加工)
40A	-	0.94	0.08	1.89
80A	-	1.78	0.14	3.55
90A	-	2.00	0.18	4.00

施工単価構成内訳

44.000m当たり算出

名	称	規 格	数	量	単 位	備 考
(1)	ガス管	表2	8.000		本	40A・80Aの時
(1)	ガス管	表2	5.5m*8.0本		m	90Aの時
(2)	配管工(切断)		表2		人	
(3)	配管工(ネジ加工)		表2		人	
(4)	世話役		表1		人	
(5)	特殊作業員		表1		人	
(6)	普通作業員		表1		人	
(7)	ボーリングマシン	5.5kw級	表1		日	発電・電力の場合
(7)	ボーリングマシン	5.5kw級	表1		日	内燃機関の場合
(8)	発動発電機	排対型45KVA	1.09*表1		日	発発(排対型)の場合
(8)	発動発電機	従来型45KVA	1.09*表1		日	発発(従来型)の場合
(9)	電力料		2.500*6.4*表1		KWH	電力使用の場合
(9)	軽油		7.100*6.4*表1		L	発動発電機の場合
(9)	軽油		0.88*6.4*表1		L	内燃機関の場合
(10)	合計					(1)~(9)
(11)	単価		1.0		m	(10)/44.0

49	名 称	ガス管孔あけ加工	施工単位	m
----	-----	----------	------	---

1. 適用範囲
 ガス管のパイプストレナー加工に適用する。

2. ガス管種の選択 表1

ガス管種	配管工
40A	0.48
80A	0.64
90A	0.70

施工単価構成内訳

10.000m当たり算出

名	称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1)	配管工		表1	人	
(2)	合計				(1)
(3)	単価		1.0	m	(2)/10.0
(4)	1日当たり作業量			m	QD

50	名 称	保孔管設置	施工単位	m
----	-----	-------	------	---

1. 適用範囲
 調査ボーリングのパイプ(VP40mm)挿入に適用する。有孔管の場合は穴あけ加工手間を含んでいる。

2. 各種数量の選択 表1

適用区分	普通作業員
無孔管	0.30
有効管	0.74

施工単価構成内訳 20.000m当たり算出

名	称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1)	普通作業員		表1	人	
(2)	合計				(1)
(3)	単価		1.0	m	(2)/20.0
(4)	1日当たり作業量				QD

51	名 称	地すべり実態調査	施工単位	ha
----	-----	----------	------	----

1. 適用範囲
地すべり地の現地踏査に適用する。

2. 面積による補正率の選択 表1

調査必要面積	補正率
10ha未満	1.0
10～30ha未満	0.9
30～50ha未満	0.8
50～100ha未満	0.7

施工単価構成内訳

10.000ha当たり算出

名	称	規	格	数	量	単	位	備	考
(1)	設計用技師(B)		内業	0.6*	表1		人		
(2)	設計用技師(B)		外業	0.6*	表1		人		
(3)	設計用技師(C)		内業	0.6*	表1		人		
(4)	設計用技師(C)		外業	0.6*	表1		人		
(5)	普通作業員			1.2*	表1		人		
(6)	雑材料			1.00/	100			(2) + (4)	
(7)	合計							(1) ~ (6)	
(8)	単価			1.0				(7)/10.0	

52	名 称	地下水調査(携帯用触針式水位計)	施工単位	月
----	-----	------------------	------	---

1. 適用範囲

人力による地下水位測定(4回/月)及び資料整理に要する1ヶ所当りの経費である。

施工単価構成内訳

1.000月当たり算出

名	称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1)	地質調査技師	内業	0.004	人	
(2)	主任地質調査員	外業	0.200	人	
(3)	主任地質調査員	内業	0.052	人	
(4)	雑材料		1.00/100		(1) ~ (3)
(5)	合計				(1) ~ (4)
(6)	単価		1.0	月	(5)/1.000

53	名 称	パイプ歪計	施工単位	孔
----	-----	-------	------	---

1. 適用範囲
パイプ歪形(1方向)の設置、観測・資料整理に適用する。

2. 各種数量の選択 表1

適用区分	主任地質調査員(外業)	地質調査技師(内業)
設置(1孔当り)	0.20	1.50
観測・資料整理(1回当り)	0.07	0.001

3. 設置長さによる補正値の選択 表2

設置長さによる補正	補正値
16m未満	1.0
16m～30m未満	1.5
30m～45m未満	2.0
45m～60m未満	2.5
60m以上	3.0

4. 歪計(ストレインゲージ)による補正 表3

歪計(ストレインゲージ)による補正	補正値
歪計(ストレインゲージ)による補正	1.00

歪計の設置ではストレインゲージは12点(24枚)としているので、これによらない場合は、下記により補正し、その値を記入する。

補正値 = 1孔当たりストレインゲージ数 / 12 (補正値は小数点以下3位四捨五入2位止まりとする)。

施工単価構成内訳 1孔当たり算出

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1) 地質調査技師	外業	0.2*表2	人	設置の時
(2) 普通作業員	外業	0.2*表2	人	設置の時
(3) 主任地質調査員	外業	表1*表2	人	
(4) 地質調査技師	内業	表1*表2	人	
(5) 主任地質調査員	内業	0.036	人	観測・資料整理の時
(6) 図工(測量業務助手)	内業	0.024	人	観測・資料整理の時
(7) 普通作業員	内業	3.0*表3	人	設置の時
(8) ハーバーストレインゲージ	内業	24.0*表3	枚	設置の時
(9) リード線	内業	84.0*表3	m	設置の時
(10) 雑材料	内業	5.0/100		設置の時(8) + (9)
(10) 雑材料	内業	1.0/100		観測・資料整理の時 (3) + (4) + (5)
(11) 合計	内業			(1) ~ (10)
(12) 単価	内業	1.0	回	(11)/1.0

54	名 称	孔内傾斜計	施工単位	孔
----	-----	-------	------	---

1. 適用範囲
 孔内傾斜計の設置・撤去、観測、資料整理に適用する。

2. 作業項目の選択 表1

適用区分	地質調査技師	主任地質調査員	地質調査員	普通作業員	雑品
設置・撤去(1孔当たり)	0.4	0.4	0.4	0.8	7.0
観測(1孔・1回当たり)	-	0.1	0.1	-	1.0
資料整理(1孔1月当たり)	0.2	0.5	0.5	-	1.0

施工単価構成内訳 1.000孔当たり算出

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1) 地質調査技師		表1	人	
(2) 主任地質調査員		表1	人	
(3) 地質調査員		表1	人	
(4) 普通作業員		表1	人	
(5) 材料費		1.00	式	設置の場合で材料費を計上する場合
(6) 機械器具損料	孔内傾斜計	0.1	台・日	観測の時
(7) 雑品		表1/100.0		(5) 設置・撤去の時
(7) 雑品		表1/100.0		(1)~(4) 設置・撤去以外の時
(8) 合計				(1)~(7)
(9) 単価		1.0	孔	(8)/1.00

55	名 称	ボーリングマシン足場工	空m3
<p data-bbox="188 259 347 293">1. 適用範囲</p> <p data-bbox="188 295 1350 365">グラウト工用ボーリングマシンに適用する。尚、横孔ボーリング工用ボーリングマシンの足場工(地表)にも適用できる。</p> <p data-bbox="188 421 427 454">施工単価構成内訳</p> <p data-bbox="188 461 721 495">土木工事標準積算基準書(河川編)による。</p>			

56	名 称	ため池堤体締固工(振動ローラ締固め)	施工単位	m ³
----	-----	--------------------	------	----------------

1. 適用範囲

振動ローラによるため池堤体工事の刃金土、鞘土、背面盛土の締固めを行う作業に適用する。

施工単価構成内訳

日(QDm³)当たり算出

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
(1) 振動ローラ(搭乗式コンバインド型)	3.0~4.0	1.6	日	賃料
(2) 軽油		14	L	
(3) 特殊運転手		1.0	人	
(4) 合計				(1)~(3)
(5) 単価		1.0	m ³	(4)/QD

能力算定式

1. 運転1時間当たり作業量

$$Q = \frac{V \times W \times D \times E}{N} \quad (\text{小数点以下3位四捨五入2位止まり})$$

D : 仕上がり厚さ(締固め後の厚さ)(m)

V : 締固め速度 = 1000 (m / hr)

W : 1回の有効締固め幅 = 0.8 (m)

N : 締固め回数

E : 作業効率 = 0.4

2. 1日当たり作業量(QD)

$$QD = Q \times T (\text{m}^3 / \text{日})$$

Q : 運転1時間当たりの作業量

T : 振動ローラの1日当たり運転時間 = 4.9 (時間)

58	名 称	カーブミラー設置	施工単位	箇所
----	-----	----------	------	----

1. 適用範囲

カーブミラー 80～100cmの設置に適用する。

2. 設置歩掛

1箇所当た

カーブミラー	普通作業員(人)
80cm	0.5
100cm	0.5

59	名 称	落口工人力布設	施工単位	箇所
----	-----	---------	------	----

1. 適用範囲

ほ場整備工事等において耕地より落水するために使用するU型工等の布設に適用する。

2. 設置歩掛

10箇所当たり

種別	土木一般世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	クレーン装置付 バックホウ (hr)
落 口	0.2	0.1	0.1	2.6
受 口	0.1	0.1	0.2	0.0
落口直線50cm	0.1	0.1	0.2	0.0
落口直線100cm	0.2	0.1	0.1	2.6

クレーン装置付バックホウの規格は山積0.45m³(平積0.35m³)とし排出ガス対策型を使用する。

60	名 称	分水トラフ	施工単位	箇所
----	-----	-------	------	----

1. 適用範囲

分水トラフA型取水工の(240, 300, 360, 400, 450, 600型)の人力布設に適用する。

2. 設置歩掛

10箇所当たり

種別	土木一般世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	雑品 (%)	クレーン装置付 バックホウ (hr)
240型	0.2	0.2	0.4	5.0	0.0
300型	0.2	0.2	0.4	5.0	0.0
360型	0.2	0.2	0.4	5.0	0.0
400型	0.2	0.2	0.4	5.0	0.0
450型	0.2	0.2	0.55	5.0	0.8
600型	0.2	0.2	0.55	5.0	0.8

クレーン装置付バックホウの規格は山積 0.45m^3 (平積 0.35m^3)とし排出ガス対策型を使用する。

62	名称		報告書作成用単価一覧表		
	名称	規格	単位	単価(円)	備考
1	原図入れ筒	A1 10枚	本	840	
2	原図入れ筒	A1 30枚	本	1,430	
3	原図入れ筒	A1 50枚	本	1,850	
4	図面袋	A1 10枚	枚	400	
5	図面袋	A1 30枚	枚	400	
6	報告書焼付代(コピー)	A4以下 100枚	部	1,500	
7	報告書焼付代(コピー)	A4以下 200枚	部	3,000	
8	報告書焼付代(コピー)	A4以下 300枚	部	4,500	
9	報告書焼付代(コピー)	A4以下 400枚	部	6,000	
10	報告書焼付代(コピー)	A4以下 500枚	部	7,500	
11	報告書表紙代	厚手(金文字入) A4	部	2,370	
12	報告書表紙代	薄手(黒文字入) A4	部	2,280	
13	図面焼付代	A1	枚	60	青焼
14	報告書製本代	原稿100枚以下	部	330	A4
15	報告書製本代	原稿101~200枚	部	630	A4
16	報告書製本代	原稿201~300枚	部	930	A4
17	報告書製本代	原稿301~400枚	部	1,230	A4
18	報告書製本代	原稿401~500枚	部	1,530	A4
19	ポリエステルシート	#300 A1版	枚	322	片面
20	ポリエステルフィルム片面ロール	920mm×20m 厚0.075mm	本	12,400	
単価は県内統一価格					